講演の前振り口上まで、似ていたとは…

当 HP の記事：「語り伝えたいことが、表現は異なれどこうまで同じとは…（「雑学ＢＮ」の随想等関係（Ⅵ）、2008.07.10.：参照）」を目にしてくれた実習に来たことのある元学生から、記事で触れている大学教授とは別人だが、やはり阿部ワールドの住人で、今はある国立大学の教授をしてる元学生の講演を初めて聴講したようで、次のようなメール（抜粋）をいただいた。

【　M 先生は「自分は性格がきついので、きっとお話を聞く中で傷つく方もいらっしゃると思います。
こどもや病気の人には優しいけど、教員や学生、親には厳しいですよ！」とおっしゃっていたので、阿部さんと一緒！って思いましたよ。
先生は、阿部さんのように物事を自分の考え、経験からはっきりと言われるので、説得力もあり、お話を聞くことができて良かったと思っています。　】

いやぁ～、参った！講演の前振り口上まで、自分と似ていたとは……。
元学生たちが出入りしていた学生時代に、こんな口上のような調子で話し、かつ、厳しく接していたのかなぁ～……。
確かに、重度の障害のある子どもたちは自分の障害が「イヤになった、疲れた」からと云って障害から逃げ出す訳にいかないだけに、出入りする学生たちには「子どもと係わり合いたいなら、途中で逃げ出さない覚悟をするように！」、また、「相手の立場、肩書きが何であろうが、子どもたちのためなら云うべきことを云える理論武装の力をつけるように！」と、まず最初に話してはいたが…。

「『伝えたいこと』と、『伝わること』は違う。」と云われている。
つまり、「伝える」側の意図がそのまま相手に伝わるとは限らないが、そこから相手なりに何かを感じ取ってくれることが「伝わること」であるよう。
言い換えれば、「より解るように…」と言葉・情報という枝葉を繁らせると、伝えたい真意という幹はますます見え難くなるということのよう。

当 HP のモットーは「簡潔、明瞭、明快に見つめ、「人間」、「社会」についての基本的事柄を次世代と共に考え、また、次世代へメッセージを発信できれば…」であるが、更に心懸けたい。
それだけに、「似てる！」と云われるほど、元学生たちに何かが伝わっていることを知ると嬉しいものである。

阿部幸泰　　（2008 年 7 月 18 日　記）